

参考記事

* 上演資料集掲載号のうち、歌舞伎公演のものはカと付記
 * 備考には、①発行年月、④発行所、③特記事項を記した
 * 人名上の()内は世代

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
239、 262	太功記の院本尼ヶ崎の段 を讀みての所感を述ぶ 附録 語方の実例 絵本太功記 尼ヶ崎の段	研究	大東楼愚楽 人		名物浄瑠璃雜誌 義太夫秘訣	2	①明治32年3月 ④名物浄瑠璃雜誌社 ①明治36年3月 ④服部書店 ③第2版明治39年6月富田文陽堂発 行 第4版大正10年9月野村青雲堂 発行 平成9年8月ケレス出版発行 『近世文芸研究叢書25卷 第二期芸 能篇 浄瑠璃5』に『浄瑠璃素人講 釈』とともに(復刻)収録、上演資 料集239は摘録
	文楽の松島移転	芸談	水谷弓彦 (不倒)	竹本撰津 大掾	竹本撰津大掾 二代目越路太 夫		①明治37年2月 ④博文館 ③明治5年1月松島文楽座初興行、 6月⑤竹本春太夫・②竹本越路太夫 の巡業の記事 ③明治17年1月文楽座公演の記事 ③『太功記』への影響、明治24年11 月の『大阪毎日新聞』評と越路の対 応 ③明治33年11月・36年11月公演の記
	越路の全盛期						
	浄瑠璃の上の活歴風の流 行						
	最近の興行						

「絵本太功記」(参考資料一覧)

239、 337		337							
文楽座の初興行	文楽座一月興行	堀江座見物素人評	堀江座一寸覗き	絵本太功記 二日目 本能寺の段に就いて 尼ヶ崎の段に就いて	絵本太功記 二日目 本能寺の段に就いて	堀江座に於ける太功記と 帯屋の盲評	語り物の種類		
劇評	劇評	劇評	劇評		解説	劇評			
		中村商海子 ／ 中村柳雨 子			竹本其太夫	中村商海子			
					鶴沢名門 二				
浪花 名物 浄瑠璃雑誌	浪花 名物 浄瑠璃雑誌	浪花 名物 浄瑠璃雑誌	浪花 名物 浄瑠璃雑誌	浪花 名物 浄瑠璃雑誌	浄曲 百段 語り物の 訳	浪花 名物 浄瑠璃雑誌			
114	83	75	59			45			
①大正2年2月 ④浪花 名物 浄瑠璃雑誌社 ③大正2年1月御霊文楽座所演、上 演資料集239は摘録	①明治43年1月 ④浪花 名物 浄瑠璃雑誌社 ③明治43年1月御霊文楽座所演	①明治42年5月 ④浪花 名物 浄瑠璃雑誌社 ③明治40年5月堀江座所演	①明治40年9月 ④浪花 名物 浄瑠璃雑誌社 ③明治40年9月堀江座所演	①明治39年4月 ④其中堂書店	①明治38年12月 ④浪花 名物 浄瑠璃雑誌社 ③明治38年11月堀江座所演	③得意な「太功記」	事		

「絵本太功記」(参考資料一覽)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
337	一月の文楽座	劇評	近松秋江		演芸画報	第7年2号	①大正2年2月 ④演芸画報社 ③大正2年1月御霊文楽座所演
239、 337	新年の文楽座	劇評			浪花浄瑠璃雜誌	139	①大正4年1月 ④浪花浄瑠璃雜誌社 ③大正4年1月御霊文楽座所演、上演資料集239は摘録
337	近松座九月興行	劇評			浪花浄瑠璃雜誌	122	①大正2年9月 ④浪花浄瑠璃雜誌社 ③大正2年9月近松座所演
	操の『太十』の型	演出	森ほのほ		第一次歌舞伎	第159号	①大正2年9月 ④歌舞伎発行所 ③大正2年6月東京有楽座近松座所演
	孫市切腹						
	絵本太功記 尼ヶ崎						
	絵本太功記 妙心寺	梗概 批評	徳島県教育 委員会		義太夫調査書		①大正2年4月 ④徳島県教育委員会
カ73、 84、 104	人形「太十」の型―有楽 座の人形浄瑠璃―	劇評	森ほのほ		新演芸	第2巻10号	①大正6年10月 ④玄文社 ③大正6年9月頃か有楽座近松座所

154、84、 185、104									
繪本太功記 十冊目切 尼ヶ崎の段	人形の太功記	目(一)(二)	講壇 繪本太功記 十段	語り方の理論 詞と地合 字配り研究の必要	理論の応用 先人の遺訓 「繪本太功記十」に就いての津太夫氏の口授大要	浄瑠璃を語ると云ふ事の 意義 義太夫節本来の約束 麓太夫の太功記			
演出 杉山其日庵 (茂丸)	演出 水島爾保布 文/画	註釈	解題 月廼舎掬水			研究 秋山木芳 (清)			
新演芸 浄瑠璃素人講 釈		浪花 浄瑠璃雑誌	174・ 177			義太夫大鑑 下巻			
①大正15年12月 ④黒白発行所 ③昭和50年3月鳳出版より復刻版、 平成9年8月クレス出版発行『近世 文芸研究叢書25巻 第二期芸能篇 浄瑠璃5』に『義太夫秘訣』とともに 収録	①大正8年6月 ④玄文社 ③大正8年2月御霊文楽座所演	①大正7年1月・4月 ④浪花 浄瑠璃雑誌社		③字配りの例 (復刻)	①大正6年12月 ④満州日日新聞社 ③平成9年8月クレス出版発行『近 世文芸研究叢書23巻 第二期芸能篇 浄瑠璃3』、『義太夫大鑑』所収 (復刻)	演			

「絵本太功記」(参考資料一覧)

上演資料集 掲載号		題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	古鞆の「太十」 ―四月の文楽座―	文楽新聞評抜萃 その第四回 上 逆勝手のこと 文楽新聞評抜萃 その第四回 下 「太十」の人形 現在の文楽の人々 竹本さの太夫 文楽座四月興行の賑ひ	劇評	石割松太郎		演芸月刊	第11号	①昭和5年4月 ④演芸月刊社 ③昭和5年4月四ツ橋文楽座所演
	文楽物語 「大序会」の話	芸話	三宅周太郎			文楽之研究		①昭和5年6月 ④春陽堂 ③若葉太夫の「太十」 ①昭和15年3月 ④創元社 ③創元選書40
	浪花 名物 浄瑠璃雑誌	評論				291		③③竹本越路大夫の「夕顔棚」の稽古 ①昭和5年5月 ④浪花 浄瑠璃雑誌社 ③昭和5年4月四ツ橋文楽座所演 (短評)
	演出					文楽之研究		①昭和5年6月 ④春陽堂 ③昭和3年7月東京新橋演舞場所演 ④春陽堂
	劇評					定本文楽の研究		①昭和27年5月 ④創元社
	研究					改修文楽の研究		

文楽座三月興行	人形芝居の研究 文楽座の危機―『説教讃 語』一壻― 書卸の「絵本太功記」	文楽座の三月	文楽人形物語 焼けた人形、残った人形 残った方				
劇評	研究	劇評	芸話				
	石割松太郎		三宅周太郎				
浪花浄瑠璃雑誌	人形芝居の研 究	浪花浄瑠璃雑誌	文楽之研究	改修文楽の研 究	定本文楽の研 究		
331		322					
③昭和9年3月四ツ橋文楽座所演 ④浪花浄瑠璃雑誌社 ①昭和9年4月	③出版年代により収録論文が異なる ④更生閣 ①昭和18年11月 ④修文館 ③石割松太郎選集	(短評) ③昭和8年3月四ツ橋文楽座所演 ④浪花浄瑠璃雑誌社 ①昭和8年4月	③創元文庫 ④春陽堂 ①昭和5年6月 ③「文七」①吉田玉造の光秀、「金時」四方田但馬守	①昭和15年3月 ④創元社 ③創元選書40	①昭和27年5月 ④創元社 ③創元文庫		

「絵本太功記」(参考資料一覧)

掲載号	上演資料集	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
262		文楽夜話 文五郎の『太十』の型	解説	石割松太郎		近世演劇雑考		①昭和9年9月 ④岡倉書房
		芸の生涯 文楽座時代 文楽座の松島移転	芸談	木谷正之助 (蓬吟)		五世弥太夫芸 の六十年		①昭和9年10月 ④木谷正之助 ③明治5年1月の記事
		絵本太功記	解題 註釈	樋口慶千代 校注		評釈江戸文芸叢 書	第4巻 傑 作浄瑠璃集 下(隆盛 時代)	①昭和10年12月 ④大日本雄弁会講談社 ③出処・主要人物の略伝
		文楽座の人形浄瑠璃土 佐太夫引退興行	劇評	安部豊		演芸画報	第31年7号	①昭和45年9月 ④講談社 ③昭和10年12月刊の複製
		御挨拶に代へて 辰五郎さんの阿能局	芸談	鴻池幸武	①吉田栄 三	吉田栄三自伝		①昭和12年7月 ④演芸画報社 ③昭和12年6月東京明治座所演
239、 262		御挨拶に代へて 喜十郎さんと操のクドキ 初舞台の年						①昭和13年11月 ④相模書房 ③昭和23年12月武智鉄二の序等加え 和敬書店より再版 ③吉田辰五郎 ③吉田喜十郎の型 ③明治16年6月の記事

239、 262	芸談	芸談	道頓堀へ進出 時代	御霊文楽座焼失と弁天座 京都文楽座へ	松竹さんになってから	「狐火」の早替り	松竹さんになってから 名古屋への旅	名古屋への旅	松竹さんになってから	大椽さんの光秀	初役のお筆	文楽座へ復帰	鹿造さん	神戶へ出勤と彦六座の没 落	神戶菊の亭へ	澤の席の柿葺落し	神戶へ出勤と彦六座の没 落	神戶菊の亭へ	神戶へ出勤と彦六座の没 落	澤の席の柿葺落し	③明治24年1月山三郎と力丸
239、 262	芸談	芸談	道頓堀へ進出 時代	御霊文楽座焼失と弁天座 京都文楽座へ	松竹さんになってから	「狐火」の早替り	松竹さんになってから 名古屋への旅	名古屋への旅	松竹さんになってから	大椽さんの光秀	初役のお筆	文楽座へ復帰	鹿造さん	神戶へ出勤と彦六座の没 落	神戶菊の亭へ	澤の席の柿葺落し	神戶へ出勤と彦六座の没 落	神戶菊の亭へ	神戶へ出勤と彦六座の没 落	澤の席の柿葺落し	③明治24年1月山三郎と力丸

「絵本太功記」(参考資料一覧)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
15484、 104	明治座の文楽見物	劇評	安部豊		演芸画報	第33年4号	①昭和14年4月 ④演芸画報社 ③昭和14年3月東京明治座所演
	研究と随筆 淡路島「人形」行脚 淡路の人形の今昔	研究	三宅周太郎		続文楽の研究		①昭和16年11月 ④創元社 ③創元選書84、淡路の人形の役者組織 ③③竹本津大夫「杉の森」
	研究と随筆 「文楽」といふ世界 外題の選び方						
	研究と随筆 「義太夫」雑話						③豊澤團七の稽古
15484、 104	批評と追悼 「逆勝手」の人形と芝居 の「太十」	劇評					③昭和3年7月
	批評と追悼 文楽の「千人針」	劇評					③昭和13年9月
	かくて文楽座は新展開する ―その三月興行を見て―	劇評	六田甲二		演芸画報	第37年4号	①昭和17年4月 ④演芸画報社 ③昭和17年3月四ツ橋文楽座所演
15484、 104	芸談文楽鑑賞(十六) 「太功記十段目」	芸談	山口廣一	②豊竹古 鞆大夫	演芸画報	第37年5号	①昭和17年5月 ④演芸画報社 ③加筆して『文楽の鑑賞』に掲載

	文五郎芸談 かたはづしの俣	かたはづしの俣		名作浄瑠璃解説 時代物 絵本太功記	絵本太功記	文楽見物記		絵本太功記 十段目『尼ヶ崎の段』	
		芸談		解説 梗概	解説	劇評			
		中村泰昌	⑨竹本文字 大夫／佐藤 靄子	⑥竹本住大 夫	黒木勘蔵	安部豊			
		③吉田文 五郎							
	日本の芸談	文五郎芸談	六代竹本住大 夫	文楽浄瑠璃物 語	近松以後	演芸画報		文楽の鑑賞	
	第三卷 狂言 文能 楽					第37年8号			
	③『文五郎芸談』と同	①昭和18年2月 ④桜井書店 ③操、尾上ほか	①昭和57年7月 ④青蛙房	①昭和18年2月 ④正文館書店 ③『六代竹本住大夫』に収録	①昭和17年9月 ④大東出版社 ③大東名著選42	①昭和17年8月 ④演芸画報社 ③昭和17年7月東京新橋演舞場所演		①昭和19年1月 ④畝傍書房 ③演芸画報第37年5号に掲載したものに加筆収録、昭和25年4月雪月花書房より再版	

「絵本太功記」(参考資料一覽)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	清水町の師匠の三味線 芸所名古屋 清水町の師匠の代役 出勤のおぼえ	芸談	鴻池幸武	①鶴澤道 八	道八芸談		①昭和19年1月 ③昭和62年11月ぺりかん社より復刊、 ②豊澤團平の「太功記十段目」 ③①豊竹柳適太夫の「太十」 ③神戸はり半座での「太十」 ③明治18年4月彦六座「瀬川求女内」 の中、20年6月同座「七ツ目」中、 22年3月同座「夕顔棚」、27年10月 同座「夕顔棚」、32年3月堀江明楽 座「妙心寺」、大正14年11月文楽座 「十段目」、昭和7年11月四ツ橋文楽 座「夕顔棚」、9年3月同座「妙心 寺」
	(二五)	註解	武智鉄二				③「清水町の師匠の三味線」記事註 解
	出勤補遺						③昭和9年3月四ツ橋文楽座「妙心 寺」奥
	第九章 他の作者の浄瑠 璃	研究	園田民雄		浄瑠璃作者の 研究		①昭和19年2月 ④東京堂
	人形の構造 *頭のいろいろ 文七・娘・老けおやま	芸談	谷口正太郎	②桐竹紋 十郎	文楽の人形と 三味線		①昭和19年10月 ④文楽研究会 ③②桐竹紋十郎の人形・鶴沢清二郎 の三味線の芸談、桐竹紋十郎の芸談

	239、 262									
文楽の「六法」の話	不遇の染太夫さん 「鶴沢叶・聞書」	五代目豊澤廣助さん 「鶴沢叶・聞書」	西流と東流 「鶴沢叶・聞書」	初代桐竹紋十郎さん 「鶴沢叶・聞書」	大掾さんの十八番物 「鶴沢叶・聞書」	* 光栄の数々	* 京の出世舞台 人形修業の半生	* 人形の名人 文三・玉蔵・多為蔵	人形雑話 * 人形の型について 型の工夫	
評論					芸談					
大西重孝					茶谷半次郎					
					④ 鶴澤叶					
幕間					文楽聞書					
第1巻7号 (7号)										
③ 昭和21年8月四ツ橋文楽座所演	④ 和敬書店	① 昭和21年11月	③ ⑨ 竹本染太夫の「杉の森」	③ 「十段目」操のくどき	③ 東流「十段目」	③ ① 桐竹紋十郎の操	③ ④ 全国書房 ③ 竹本撰津大掾の「十段目」	③ 秩父宮様と『太功記十段目』	③ 繁若	③ ④ 吉田玉造の光秀
										中文七〓光秀、娘〓初菊、老けおや ま〓操 ③ 吉田文三の光秀

「絵本太功記」(参考資料一覽)

掲載号	上演資料集	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
239、 262	154、 185	239 「太功記」ひとり判断— 六月の文楽座に因みて— 六月の文楽座興行	研究	木谷蓬吟		文楽	第3巻6号	①昭和23年8月 ④誠光社
		鶴澤清八対談	芸談	三宅周太郎	鶴澤清八	幕間	第3巻6号 (28号)	①昭和23年6月 ④和敬書店 ③⑨竹本染太夫の「杉の森」、昭和25年5月創元社発行『芸能対談』に収録
		鶴澤友次郎対談	芸談	三宅周太郎	⑥鶴澤友次郎	幕間	第2巻12号 (21号)	①昭和22年12月 ④和敬書店 ③「太十」、昭和25年5月創元社発行『芸能対談』に収録
		竹本綱太夫対談	芸談	三宅周太郎	⑧竹本綱太夫	幕間	第2巻11号 (20号)	①昭和22年11月 ④創元社 ③「太十」、昭和25年5月創元社発行『芸能対談』に収録
		きのふ・けふ 『絵本太功記』尼崎	演出	大西重孝		文楽	第3巻7号	①昭和23年9月 ④誠光社
		人形との咄合	芸談	茶谷半次郎	豊竹山城少掾	山城少掾聞書		①昭和24年8月 ④和敬書店 ③「太十」 ③「太十」の操のクドキ

											忘れ得ぬひとひと 癖さまざま 掾位受領 四段目余談 浄曲秘訣(三)
											公演評集 鰻谷と新口村―南座の文 楽引越興行―
											劇評 武智鉄二
											改名を機会に
											竹本綱太夫
											芸談 三宅周太郎
											⑧竹本綱 大夫
											鶴澤清八 次郎 鶴澤友 次郎
											蜀犬抄
											幕間 定本・武智歌 舞伎
											第5巻5号 (55号)
											③文楽舞踊
											③「太十」、初出昭和22年11月発行 ④創元社 ③「太十」、初出昭和22年11月発行 「幕間」第2巻11号(20号) ③「太十」、初出昭和22年12月発行 「幕間」第2巻12号(21号) ③⑨竹本染太夫の「杉の森」、初出 昭和23年6月発行「幕間」第3巻6 号(28号)
											③「太十」 ③⑤竹本弥太夫の「太十」 ③受領の演目「太功記十段目」 ③やりたくない「太功記」 ③「太功記」十段目の産字 ①昭和25年4月 ④和敬書店 ③「太功記十段目」昭和17年9月京 都南座所演 ①昭和54年8月 ④三一書房

「絵本太功記」(参考資料一覽)

掲載資料集号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
337185104 262154	絵本太功記	解説 梗概	近石泰秋		新註国文学叢書106 浄瑠璃名作集 下		①昭和26年6月 ④大日本雄弁会講談社 ③解説「初演・作者・実説・関係作品・梗概」「掲載段の作・趣向・曲節・人形振」
185104 154	絵本太功記	語釈					③二条城配膳の段・本能寺の段・妙心寺の段・夕顔棚の段・尼ヶ崎の段の語釈
	十月の文楽座	演出	吉永孝雄		幕間	第6巻11号 (76号)	①昭和26年11月 ④和敬書店 ③昭和26年10月四ツ橋文楽座因会所演
15484 185104	文楽一夕話 『太十』と麓太夫	芸談	③竹本綱大 夫		幕間	第7巻7号 (84号)	①昭和27年7月 ④和敬書店
15484 185104	文楽一夕話 「太十」の風格	芸談	③竹本綱大 夫		幕間	第7巻8号 (85号)	①昭和27年8月 ④和敬書店
15484 185104	文楽一夕話 操のクドキ 附大隅さんの思ひ出	芸談	③竹本綱大 夫		幕間	第7巻9号 (86号)	①昭和27年9月 ④和敬書店
	文楽の黄昏	劇評	武智鉄二		演劇評論	1号	①昭和28年9月

	山城少掾の芸境	山城少掾の休演と難波掾のお半―文楽座三月評―	住大夫引退披露興行 九月の文楽座因会三和会合同公演	文楽の黄昏―八月の南座評―	三度目の歌舞伎復帰		
	劇評	劇評	劇評	芸談			
	武智鉄二	吉永孝雄	吉永孝雄	竹本鏡大夫			
	歌舞伎の黎明	定本・武智歌舞伎	幕間	幕間	定本・武智歌舞伎		
		③文楽舞踊	第12巻4号 (143号)	第9巻3号 (104号)	③文楽舞踊		
	①昭和30年7月 ④青泉社 ③昭和22年5月四ツ橋文楽座評	①昭和54年8月 ④三一書房 ③「公演評集」中、公演評一束	①昭和32年4月 ④和敬書店 ③昭和32年3月道頓堀文楽座因会所演(短評)	①昭和29年3月 ④和敬書店 ③「公演評集」中、公演評一束	①昭和54年8月 ④三一書房 ③「公演評集」中、公演評一束	④演劇評論社 ③昭和28年8月京都南座所演	①昭和33年10月 ④和敬書店 ③昭和33年9月道頓堀文楽座合同所演

「絵本太功記」(参考資料一覧)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
185	絵本太功記 十段目 人形一覧 *六代目さんと播磨屋さん *三味線弾きのかげ声について *師匠山城少掾のこと *切場語り *代役物語 *でんでん虫五十年 *大序の修業	参考 劇評 芸談	権藤芳一 吉永孝雄 ⑧竹本綱大 夫		伝統演劇 幕間 でんでん虫	12 特集・ 丸本歌舞伎 研究(1) 第14巻8号 (171号)	①昭和33年12月 ④伝統演劇研究会 ①昭和34年8月 ④和敬書店 ③昭和34年7月道頓堀文楽座因会所演 ①昭和39年6月 ④布井書房 ③大正7年2月記事・『太功記』芸談 ③「尼ヶ崎」 ③「清水長左衛門切腹」より「妙心寺」 ③「尼ヶ崎」 ③「尼ヶ崎」 ③「尼ヶ崎」
	演出 祐田善雄				日本古典文学 大系	第99巻 文 楽浄瑠璃集	①昭和40年4月 ④岩波書店 ③文楽用語付載

262	伝話帳 * 発声法	義太夫国紳士録 * 三世越路大夫師 勘当のチャンピオン * 六世野澤吉兵衛師匠 仏の師匠 * 竹本菅大夫師 大エソ・小エソ * 六世竹本土佐大夫師 風流人 * 七世竹本源大夫師 早口コーチ 綱大夫図書室 「太功記」 十段目	芸談 ⑧ 竹本綱大 夫	文楽の『絵本太功記』	劇評	濱村米蔵	芸談 むり かたつ	演劇界	第24巻 8号	① 昭和41年4月 ④ 布井書房 ③ 「尼ヶ崎」 ① 昭和41年4月 ④ 布井書房 ③ 「妙心寺」 ③ 十段目 ③ 十段目 ③ 「本能寺」 ③ 若葉大夫の「尼ヶ崎」 ③ 「尼ヶ崎」
	ども * 大通人杉山先生のこと									① 昭和41年8月 ④ 演劇出版社 ③ 昭和41年7月東京三越劇場所演

「絵本太功記」(参考資料一覧)

上演資料集 掲載号		種目		執筆者・著者		話者		誌名・書名		号数		備考	
239、 262	桐竹紋十郎	芸話	金子弘二写 真/安藤鶴夫	安藤鶴夫		文楽◎桐竹紋 十郎	安藤鶴夫作品 集	III 芸	III 芸	①昭和42年1月 ④求龍堂 ③昭和55年1月朝日新聞社刊『文楽 芸と人』に収録、②桐竹紋十郎の操 ①昭和45年12月・復刻版平成9年3 月 ④朝日新聞社 ③『文楽―日本の伝統』『桐竹紋十 郎』『古鞆芸談』所収			
	文楽 日本の伝統	評論	安藤鶴夫			日本の伝統	安藤鶴夫作品 集	III 芸	III 文 楽	①昭和42年12月 ④淡交社 ③昭和55年1月朝日新聞社刊『文楽 芸と人』に収録 ①昭和45年12月・復刻版平成9年3 月 ④朝日新聞社 ③『文楽―日本の伝統』『桐竹紋十 郎』『古鞆芸談』所収			
	人形の性根	演出	大西重孝			文楽人形の芸 術				①昭和43年5月 ④演劇出版社 ③光秀の首「文七」 ③「十段目」大落し			
	人形の殺し場												

239、 262	『文楽―日本の伝統』 『桐竹紋十郎』 『古鞞芸談』	評論 芸話	安藤鶴夫		安藤鶴夫作品 集	Ⅲ 芸	④月 ①昭和45年12月・復刻版平成9年3 ④朝日新聞社								
* 玉造がのこしたもの	* 吉田栄三郎	* 文五郎の手	* 名人 吉田栄三	思い出の人々	* 弓張り	* 棒足	* 石投げ	* 六法	* 団七走り	* 打込み	* つかみ手	人形の手	人形の基本	文楽の舞台と人形	人形の基本
															③『太功記』の役の首の種類 ③「太十」の光秀
	③④吉田玉造の「尼ヶ崎」の光秀	③③吉田文五郎の初菊	③「太十」の初菊・操・十次郎	③①吉田栄三の「太十」の光秀	③「太十」の光秀と久吉	③「太十」の光秀	③「太十」の久吉	③「太十」の光秀	③「太十」の光秀	③「太十」の十次郎					

「絵本太功記」(参考資料一覧)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
239	絵本太功記 十段目	解説	菊池明				①昭和46年3月 ④筑摩書房・日本ビクター ③レコード番号VP-3014演奏者④竹本津大夫・⑥鶴澤寛治、郡司正勝監修
	義太夫のドラマと曲調	研究	内山美樹子				①昭和46年12月 ④国立劇場事業部
	太十の思い出	随筆	武智鉄二				①昭和47年11月 ④国立劇場事業部
	文楽の首シリーズ24	演出	齋藤清二郎		国立劇場歌舞伎公演解説書	第46回	①昭和47年11月 ④国立劇場事業部
	演目解説 絵本太功記 尼ヶ崎の段	解説 梗概	武智鉄二		土門拳 文楽 定本・武智歌 舞伎	③文楽舞踊	①昭和47年12月 ④駿々堂出版 ①昭和54年8月 ④三一書房
	第六の巻	芸談	井野辺潔/ 黒井乙也校 註		染太夫一代記	青蛙選書41	①昭和48年1月 ④青蛙房 ③⑥竹本染太夫、天保2〜3年の記事
	第九の巻						③⑥竹本染太夫、天保5〜7年の記事
	第十三の巻						③⑥竹本染太夫、天保11〜12年の記事
	第十六の巻						③⑥竹本染太夫、天保13年の記事

	鑑賞ガイド 文楽講座27 名人豊澤団平	鑑賞 『絵本太功記』通し上演 の意義	鑑賞 深層心理の琴線にふれる 古典	梗概 圧倒する迫力 時代物 絵本太功記	鑑賞 文楽の風土 8 「絵本太功記」の尼ヶ崎 の段					
	鑑賞 吉永孝雄	鑑賞 大鋸時生	鑑賞 安西二郎	吉永孝雄／ 三村幸一 写真	鑑賞 吉永孝雄					
	国立劇場文楽 公演解説書		朝日座番付	カラー文楽の 魅力	大阪					
	第30回				87					
	①昭和49年4月 ④国立劇場事業部		①昭和45年1月 ④文楽協会	①昭和49年1月 ④淡交社 ③写真と梗概	①昭和48年6月 ④大阪府観光連盟	③⑥竹本染太夫、 嘉永3年の記事	③⑥竹本染太夫、 弘化1～3年の記 事	③⑥竹本染太夫、 弘化1年の記事	③⑥竹本染太夫、 天保14～15年の記 事	③⑥竹本染太夫、 天保13～14年の記 事

「絵本太功記」(参考資料一覽)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
239、 262	文楽名作鑑賞 絵本太功記	解説 梗概	山田庄一		文楽入門 舞伎	③文楽舞踊	①昭和52年6月 ④文研出版 ①平成2年1月 ④ぎょうせい ③『文楽入門』昭和52年6月文研出版発行の改訂版
235、 300	三和会の中堅 ★豊竹呂賀太夫君 ぶんらくの「六法」の話	評論	武智鉄二		雑誌「78」		③「幕間」第1巻6号に掲載のもの ①昭和50年6月、昭和52年1月連載 ③竹本大隅太夫の「太十」
	復興文楽	評論					③「十段目」
	栄三の舞台 絵本太功記 ①栄三の光秀 尼ヶ崎の段	研究	大西重孝		文楽人形の演出		①昭和49年8月 ④大西重孝著作刊行会 ③昭和23年9月誠光社刊「文楽」第3巻7号掲載のものに人形扮装表と浄瑠璃本文を併載 ③昭和20年7月文楽座公演
	テキストと配役に不満	劇評	内山美樹子		演劇界	第32巻6号	①昭和49年6月 ④演劇出版社 ③昭和49年4月国立劇場所演

		262					
	「桐竹紋十郎」	文楽 日本の伝統	資料 『絵本太功記』初演時の	戦後 古きに還れ、無念無想	四たび退座	信条	
	芸話	評論	資料			芸談	
		安藤鶴夫					
	②桐竹紋 十郎					豊竹山城 少掾	
		文楽 芸と人	義太夫年表 近世篇			日本の芸談	
			第1巻			第三巻 狂言 楽文 能	
	「十段目」の操の演技	③金沢座の④吉田小兵吉 ①初菊・③吉田玉造 ②光秀・①吉田震助 ②操、大正6年2月竹豊座、昭和2年1月弁天座玉露と初菊、③吉田文五郎に褒められた初菊、②桐竹紋十郎の「十段目」の操の演技	①昭和55年1月 ④朝日新聞社 ③「文楽 日本の伝統」 「古鞆芸談」昭和19年1月1日～5月10日まで朝日新聞に連載「桐竹紋十郎」収録、「尼ヶ崎」 ①豊竹麓太夫の風	③「太功記」の逸話 ③秩父宮様と『太功記十段目』 ③十段目について、十次郎と息子	①昭和53年12月 ④九藝出版 ③「山城少掾自伝」「文五郎芸談」を収む「山城少掾自伝」中、①豊竹麓太夫風の「十段目」		

「絵本太功記」(参考資料一覧)

掲載号	上演資料集	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
		人形の型17 「こじり・こじり六法」	演出	戸部銀作		国立劇場文楽公演解説書	第55回	①昭和55年12月 ④国立劇場事業部
		鑑賞ガイド	鑑賞	横山正				
		絵本太功記―悲劇的英雄光秀―		横山正				
		久しぶりで賑わう話題	劇評	大鋸時生		演劇界	第37巻6号	①昭和54年6月 ④演劇出版社 ③昭和54年4月朝日座所演
		近松やなぎの一作風	鑑賞	横山正		朝日座番付		①昭和57年1月 ④文楽協会
		盛りあがらない正月公演	劇評	桜井弘		演劇界	第40巻2号	①昭和57年2月 ④演劇出版社 ③昭和57年1月朝日座所演
		師匠春秋 師匠春秋(二)	芸談	高木浩志	④竹本越路大夫	四代竹本越路大夫		①昭和59年3月 ④淡交社 ③②豊竹古靱大夫の「妙心寺」の稽古 ③「鉄扇」の重次郎
		師匠春秋 背伸び日記						③「局注進」
		師匠春秋 馬を射る(二) 太夫の巻						
		小松颯爽 つばめ追跡飛行						③②豊竹つばめ大夫時代の⑧竹本綱大夫

<p>小松颯爽 好きになった人</p>	<p>簾内の修業</p>	<p>「三味線殺し」の異名</p>	<p>文楽の芸―その修業 名人の芸談から・歴戦の太夫達</p>	<p>文楽の芸―その修行 人形・創造する努力</p>	<p>文楽の芸―その表現 太夫の表現Ⅱ九代竹本文 字大夫の話</p>	<p>文楽の芸―その表現 三味線の表現Ⅱ四代野澤 錦糸の話</p>	<p>文楽の芸―その表現 人形の表現Ⅱ二代桐竹勘 十郎の話</p>
	<p>芸談 ④竹本津大 夫</p>		<p>研究 高木浩志</p>				
	<p>文楽三代 竹 本津大夫聞書</p>		<p>文楽の芸</p>				
<p>③④竹本大隅大夫の「妙心寺」四方 田、竹本鏡太夫の「妙心寺」</p>	<p>①昭和59年4月 ④大阪書籍 ③朝日カルチャーブックス35、「妙 心寺」</p>	<p>③昭和57年7月公演「太十」の竹澤 団七</p>	<p>①昭和59年5月 ④東京書籍 ③地合中心の作品「尼ヶ崎」 ③①豊竹麓太夫の見識</p>	<p>③「尼ヶ崎」の稽古、②野澤喜左衛 門の「尼ヶ崎」の三味線</p>	<p>③「尼ヶ崎」の手数、②竹本七五三 太夫の「尼ヶ崎」</p>	<p>③光秀の役</p>	

「絵本太功記」(参考資料一覽)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
239	初稽古 堂々「壺坂」を	芸談	①竹本住大 夫／和多田 勝		言うて暮して いるうちに		①昭和60年4月 ④創元社 ③子どもの頃の稽古
239	文楽小史 文楽軒登場 文字大夫襲名 稽古稽古 文字大夫襲名 情愛に国境なし	劇評	毎日新聞		国立劇場上演 資料集	239	③海外で喜ばれる『絵本太功記』 ①昭和60年5月 ④国立劇場調査養成部芸能調査室
239	越路の「尼が崎」大正4 年1月御霊文楽座所演 越路の「尼が崎」大正6 年2月御霊文楽座所演 古靱の「尼崎」大正8年 2月御霊文楽座所演	入門	権藤芳一		文楽の世界		①昭和60年6月 ④講談社
	第一章『一谷嫩軍記』三 の切・熊谷陣屋の段	芸談	④竹本津大 夫／津大夫 を囲む研究 会		四世竹本津大 夫芸話		①昭和61年7月 ④白水社 ③「太十」操のクドキ、歌えるよう になれば一人前、三味線の立場から の「へさわり」と「クドキ」

					262			
	第二章『義経千本桜』三の切・鮮屋の段				第八章 太夫様式 五節 豊竹麓太夫	安土城の復原	大岡と大阪	「あんたとは仲わるうならへんナ」と二代喜左衛門さんが言うてくれはった……鶴沢叶太郎
	イヌ年は当たり年							「ゆかりの地」あれこれ
	解説篇 胴串							新・喜左衛門の「尼ヶ崎」
	芸談	研究	考証	考証	芸談	史跡	劇評	
	田結荘哲治	横道萬里雄 ／井野辺潔 他	内藤昌	岡本良一	川崎一朗	田結荘哲治	田結荘哲治	
	②吉田玉五郎			鶴沢叶太郎				
	文楽 人形の魅力	義太夫節の様式展開	国立文楽劇場 文楽公演解説書				演劇界	
			第18回				第45巻6号	
	③「太十」の十次郎のことば	①昭和61年8月 ④大阪書籍 ③朝日カルチャーブックス66、さつきの役 ③①吉田文三の光秀	①昭和61年10月 ④アカデミア・ミュージック ③十冊目	①昭和62年4月 ④国立文楽劇場事業課			①昭和62年5月 ④演劇出版社 ③昭和62年4月国立文楽劇場所演	

「絵本太功記」(参考資料一覽)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
262	初演の主な出演者 豊竹麓太夫	演者			国立劇場上演 資料集	262	①昭和62年5月 ④国立劇場調査養成部芸能調査室 ③昭和61年10月アカデミア・ミュー ジック刊『義太夫節の様式展開』横 道萬里雄執筆より
262	初演の主な出演者 ①豊竹巴太夫	演者					③秋葉芳美執筆『日本人名大事典』 四より
262	初演の主な出演者 ①吉田新吾	演者					③秋葉芳美執筆『日本人名大事典』 六より
262	初演の主な出演者 ①吉田辰五郎	演者					③秋葉芳美執筆『日本人名大事典』 六より
262	近松千葉軒	作者					③秋葉芳美執筆『日本人名大事典』 四より
262	近松湖水軒	作者					③秋葉芳美執筆『日本人名大事典』 四より
	人形のいろいろ5 「鱸 孫市」	演出	撮影 酒井 文司		国立劇場文楽 公演解説書	第80回	①昭和62年5月 ④国立劇場事業部
	光秀で泣かせる「絵本太 功記」	研究	景山正隆				
	鑑賞ガイド1、2	鑑賞	岡田聰				

							二ヶ月目の『太功記』
							第二話 入門まで *源大夫は名人やけど
							第四話 端場 *一谷嫩軍記・組討
							第六話 口伝は師匠にあり 稽古は花鳥風月にあ り *口伝
							*花鳥風月
							第七話 思い出の役々 *代役
							第一章 入門 雪降りの林檎
							第二章 襲名 旅から旅
							文楽と地方の人形芝居― 淡路と伊那谷の場合
							研究
							山田和人
							芸談
							③吉田簗助
							⑤竹本織大夫／高木浩志
							演劇界
							織大夫夜話― 文楽へのいざ ない
							浄瑠璃の世界
							頭巾かぶって 五十年 文楽 に生きて
							第45巻7号
							①昭和62年6月 ④演劇出版社 ③昭和62年5月国立劇場所演
							①昭和63年7月 ④東方出版 ③⑦竹本源大夫の「妙心寺」 ③「妙心寺」
							③「尼ヶ崎」の十次郎の首
							③「尼ヶ崎」
							③「尼ヶ崎」⑧竹本綱大夫の代役
							①平成3年8月 ④淡交社 ③昭和18年10月三法師丸 ③「尼ヶ崎」の足
							①平成4年6月 ④世界思想社

「絵本太功記」(参考資料一覧)

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	太功記それからそれへ	随筆	露の五郎		国立文楽劇場 文楽公演解説 書	第50回	①平成5年4月 ④国立文楽劇場事業課
	光秀の性格	考証	難波利三				
	六月七日「杉の森の段」の 背景	研究	鶴崎裕雄				
	竹澤團六にきく	芸談	森西真弓	⑧竹澤團 六			
	「ゆかりの地」あれこれ	史跡	田結莊哲治				
	文楽のかしらシリーズ17 「金時」	演出	吉田文雀Ⅱ 解説／飯村 隆Ⅱ撮影		国立劇場文楽 公演解説書	第103回	①平成5年5月 ④国立劇場事業部
	明智光秀の生涯	考証	大路和子				
	昔の稽古、いまの稽古	芸談	桜井弘	⑤竹本織 大夫	文楽談義		①平成5年8月 ④創元社 ③井野辺潔監修・義太夫研究会編著 『近松物と私』◎竹本織大夫』中、「十 段目」十次郎について
	芝居心の大切さ	芸談	内山美樹子	吉田玉男			③「人形芝居」を越えて◎吉田玉 男』中、「十段目」の太夫の地合
	役の性根	芸談	茂手木潔子	③吉田簀 助			③「嘘を真らしく◎吉田簀助」中、 光秀

420																											
絵本太功記	<p>家族の崩壊 太功記十段目</p> <p>操「絵本太功記」</p> <p>文楽見どころ聞きどころ 名作集 絵本太功記</p> <p>竹本綱大夫にきく</p> <p>まんがのあらすじ</p> <p>V文楽の演出(三)―復 活・通し上演と太夫― 2『絵本太功記』「光秀 屋敷」の段</p> <p>第四部 古典化の諸相 I 寛政期の浄瑠璃復興 2 太閤記物の流行</p>	<p>研究</p> <p>研究</p> <p>鑑賞</p> <p>芸談</p> <p>入門</p> <p>鑑賞</p> <p>論評</p>	<p>渡辺保</p> <p>山川静夫/ 青木信二 写真</p> <p>廓正子</p> <p>森西真弓</p> <p>長尾よし子 画</p> <p>⑤豊竹呂大 夫/内山美 樹子</p> <p>⑨竹本綱 大夫</p>	<p>昭和の名人 豊竹山城少掾 ―魂をゆさぶ る浄瑠璃</p> <p>文楽の女 吉 田箆助の世界</p> <p>文楽入門</p>	<p>浄瑠璃作品要 説</p> <p>岩波講座 歌 舞伎・文楽</p> <p>第9巻 黄 金時代の浄 瑠璃とその 後</p> <p>第10巻 今 日の文楽</p>	<p>①平成5年9月 ④新潮社</p> <p>①平成6年3月 ④淡交社</p> <p>①平成7年6月 ④淡交社 ③淡交ムック</p> <p>①平成8年1月 ④国立文楽劇場事業課</p> <p>①平成9年12月 ④岩波書店</p> <p>①平成10年3月 ④岩波書店</p> <p>①平成11年3月 ④国立劇場調査養成部芸能調査室</p>																					
梗概	研究	鑑賞	芸談	入門	鑑賞	論評	渡辺保	山川静夫/ 青木信二 写真	廓正子	森西真弓	長尾よし子 画	⑤豊竹呂大 夫/内山美 樹子	⑨竹本綱 大夫	昭和の名人 豊竹山城少掾 ―魂をゆさぶ る浄瑠璃	文楽の女 吉 田箆助の世界	文楽入門	浄瑠璃作品要 説	岩波講座 歌 舞伎・文楽	第9巻 黄 金時代の浄 瑠璃とその 後	第10巻 今 日の文楽	①平成5年9月 ④新潮社	①平成6年3月 ④淡交社	①平成7年6月 ④淡交社 ③淡交ムック	①平成8年1月 ④国立文楽劇場事業課	①平成9年12月 ④岩波書店	①平成10年3月 ④岩波書店	①平成11年3月 ④国立劇場調査養成部芸能調査室

「絵本太功記」(参考資料一覧)

掲載号	上演資料集	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
420	420	大阪人と太閤さん	随筆	旭堂小南陵		国立劇場文楽 公演解説書	第131回	①平成12年5月 ④国立劇場事業部
		芸談 上演演目に沿って 越路大夫・21世紀へのメッ セージ	芸談	高木浩志	④竹本越 路大夫	国立劇場上演 資料集	420	①平成12年5月 ④日本芸術文化振興会 ③「伽羅先代萩 御殿」『絵本太功 記 尼ヶ崎』 ①平成14年6月 ④淡交社
		絵本太功記 尼ヶ崎				四代越路大夫 の表現		
		芸談 玉男芸話 5	芸談	森西真弓	吉田玉男	国立劇場上演 資料集	420	①平成12年9月 ④日本芸術文化振興会 ③「絵本太功記」『伽羅先代萩』 ①平成13年9月 ④東方出版 ③吉田国秀の臯月
		淡路島 *白羽の矢	芸談	桐竹紋寿		文楽・女方ひ とすじ おつ るから政岡ま で		③乙女座での十次郎 ③②桐竹紋十郎が③吉田文五郎に褒 められた役・初菊 ③操の左を②桐竹紋十郎が遣う ③光秀の左 ③初菊
		*座頭 文楽合同 *四回目						
		*掛声						
		*殺す						
		文楽へのいざない *文楽の人形						

	* 文楽の女たち
光秀『絵本太功記』	
芸談	
吉田玉男 / 山川静夫	
文楽の男 吉田玉男の世界	
③ 初菊・操	
① 平成14年1月	
④ 淡交社	

国立劇場所蔵 丸本・三味線譜・稽古本

* 丸本はマイクログフィルムあり
* 人名上の()は世代

丸本	種別	行・丁	発行年	収録段名	版元	署名・印等	備考
丸本		115 七行 丁	寛政11年 (一七九九)	絵本大功記	大坂 本屋清七		再板。「二日の段」「十日の段」に部分に朱(三味線譜)あり。「二日の段」に調太夫・重太郎とあるところから、この部分は明治29年1月御霊文楽座上演の折の朱(三味線譜)かと思われる
丸本		115 七行 丁	寛政11年 (一七九九)	絵本大功記	大坂 天満屋安兵衛		発行年は初版による
丸本		96 七行 丁	寛政11年 (一七九九)	絵本大功記	大坂 本屋清七		奥書一部破損、虫食いあり。発端からほぼ全段に朱(三味線譜)あり。鶴澤由松の名あり。発行年は初版による
丸本		115 七行 丁	寛政11年 (一七九九)	絵本大功記	大坂 本屋清七		随所に太夫譜の書込みあり。発行年は初版による

「絵本太功記」(参考資料一覧)

種別	行・丁	発行年	収録段名	版元	署名・印等	備考
三味線譜	110丁		絵本太功記 七ノ口 (杉の森の段)		鶴澤花勇 ⑤鶴澤 勇造印	墨書 朱(三味線譜)入り、義経千本桜 吉野山の段・鏡山旧錦絵新清水花見の段・ 碁太平記白石嘶吉野内裏の段明神森の段・ 鎌倉二代記入墨の段・日吉丸稚桜松下館・ 大江山酒呑童子薄原の段・奥州安達原三 ノ口(敷妙上使の段)と共に合冊
稽古本	五行 不明		絵本太功記 本能寺の段		竹澤團六 竹澤弥造印	表紙改装奥付欠
稽古本	五行 不明		太功記 二日目 本能寺合戦	京都 よしのや 大谷勘兵衛	竹本勝市	酒田呂角筆、書込みあり
稽古本	五行 不明		絵本太功記 本能寺の段		⑤鶴澤勇造印	表紙改装奥付欠、朱(三味線譜)入り
稽古本	五行 不明		太功記 五冊目の切 局注進の段	大坂 天満屋安兵 衛	⑤鶴澤勇造の記載 と印	内題「絵合太功記 五冊目の切」、表紙 改装奥付欠、朱(三味線譜)入り、「御 霊文楽座にて相勤メル 竹本路太夫三味 豊澤花助」とあるが公演特定不能
稽古本	五行 不明		太功記 五冊目の切 局注進の段	大坂 天満屋安兵 衛	竹澤辰造・豊儀	内題「絵合太功記 五冊目の切」、朱 (三味線譜)入り、右記と同板
稽古本	四行 弘化4年 (一八四七)		太功記 五ツ目 局注進	京 菊屋七郎兵衛	竹澤團六	酒田呂角筆、朱(三味線譜)入り、表紙 改装奥付欠
稽古本	五行 不明		太功記 局注進の段	大阪 加島屋 竹 中清助		内題「絵本太功記 五冊目の切 局注進」、 朱(三味線譜)入り

稽古本	稽古本	稽古本	稽古本	稽古本	稽古本	稽古本	稽古本	稽古本	稽古本	稽古本
30丁	30丁	23丁	23丁	25丁	20丁	16丁	25丁	25丁	25丁	25丁
五行	五行	四行	四行	五行	五行	五行	五行	五行	五行	五行
大正15年 (一九二六)	大正7年 (一九一八)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
繪本太功記 妙心寺の段	繪本太功記 妙心寺の段	太功記 六日目 妙心寺の段	太功記 六日目 妙心寺の段	繪本太功記 六 妙心寺砦	太功記 六 妙心寺砦の段	太功記 六 妙心寺砦の段	繪本太功記 六 妙心寺砦	繪本太功記 六 妙心寺砦	繪本太功記 六 妙心寺砦	繪本太功記 六 妙心寺砦
大阪 久栄堂	大阪 久栄堂書店	京都 よしのや 大谷勘兵衛	京都 よしのや 大谷勘兵衛	大阪 加島屋 秀 平郡太	大阪 加島屋清助	大阪 加島屋清助	大阪 加島屋 竹 中清助	大阪 加島屋 竹 中清助	大阪 加島屋 竹 中清助	大阪 加島屋 竹 中清助
					花沢宮次郎		豊澤仙十郎			
内題「繪本太功記 妙心寺砦段」、豊竹君太夫筆、書込み少々あり	内題「繪本太功記 妙心寺砦段」、豊竹君太夫筆	内題無し、酒田呂角筆、朱(三味線譜)少々、右記と同板	内題無し、酒田呂角筆		内題「繪本太功記 妙心寺砦の段」、和田正兵衛筆、朱(三味線譜)入り、「勝鳳師直伝」とあり	あり	朱(三味線譜)入り、「大正15年9月中旬旬為豊澤仙十郎君 豊澤雷助朱入」とあり、右記2冊と同板	右記と同板		

「繪本太功記」(参考資料一覽)

種別	行・丁	発行年	収録段名	版元	署名・印等	備考
稽古本	46丁 四行	不明	繪本太功記 十冊目		竹澤團六	段名は内題に拠る、表紙改装奥付欠、書込み少々あり
稽古本	16丁 五行	不明	絵合太功記 尼崎の段 口	大坂 加島屋 竹 中清助	⑤鶴澤勇造印	段名は内題に拠る、表紙改装奥付欠、朱(三味線譜)入り、右記3冊と同板カ
稽古本	16丁 五行	不明	再板 太功記 夕顔棚の段	大坂 加島屋 竹 中清助		内題「絵合太功記 尼崎の段 口」、太夫譜書込みあり、右記2冊と同板
稽古本	16丁 五行	不明	再板 太功記 夕顔棚の段	大坂 加島屋 竹 中清助		内題「絵合太功記 尼崎の段 口」、右記と同板
稽古本	19丁 四行	不明	太功記 十冊目 口 夕顔棚			表紙改装奥付欠、書込み少々あり
稽古本	38丁 五行	不明	再板 太功記 七ツ目 切 杉森籠城の段	大阪 竹中清助		内題「繪本太功記 七ツ目の切」、和田正兵衛筆
稽古本	38丁 五行	不明	再板 太功記 七ツ目 切 杉森籠城の段	大坂 加島清助	⑤鶴澤勇造印	内題「繪本太功記 七ツ目の切」、和田正兵衛筆、表紙改装奥付欠、朱(三味線譜)入り
稽古本	37丁 五行	不明	繪本太功記 七ツ目の 切		竹澤團六	表紙改装奥付欠、朱(太夫譜)入り
稽古本	40丁 四行	弘化5年 (二八四八)	太功記 七ツ目 杉森籠城の段	京 菊屋七郎兵衛		酒田呂角筆、奥付欠

稽古本	44丁 五行 大正15年 (一九二六)	繪本太功記 尼ヶ崎の段	大阪 久栄堂書店		再版、内題「繪本太功記 十冊目」、豊竹君太夫筆、書込みあり
稽古本	44丁 五行 大正7年 (一九一八)	繪本太功記 尼ヶ崎の段	大阪 久栄堂書店	春華	内題「繪本太功記 十冊目」、豊竹君太夫筆、朱(三味線譜)入り
稽古本	48丁 五行 明治44年 (一九一一)	太功記 十冊目 尼ヶ崎の段	大阪 竹中清助		内題「繪本太功記 十冊目」
稽古本	39丁 五行 明治31年 (一八九八)	太功記 十冊目 尼ヶ崎の段	東京 島村吉松	野澤語三	あり 内題「繪本太功記 十冊目」、書込み少々
稽古本	53丁 四行 明治38年 (一九〇五)	繪本太功記 十段目 夕顔棚の段	名古屋 其中堂書店	華遊	あり 内題「繪本太功記 十冊目」、竹本土佐太夫校閲、鶴沢名門二立按、「戊申(明治41年一九〇八)仲春」書込みあり、「華遊」の貼り込み・「初」「十」の印あり
稽古本	38丁 五行 不明	太功記 十冊目 尼ヶ崎の段	大坂 加嶋屋清助		内題「繪本太功記 十段目」、森田萬楽筆、書込みあり

「絵本太功記」参考資料一覧

参考記事（補遺）

*本表は、上演資料集〈454〉掲載の参考記事の補遺として作成した
 *備考には、①発行年月、④発行所、③特記事項を記した
 *人名上の（）内は世代

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
499	●文楽座の春興行を聴く ○文楽座 新春の浄瑠璃界 ◎文楽座	劇評	馬脚生		浪花浄瑠璃雑誌 名物	第二卷第二号	①大正2年2月 ④博文館 ③大正2年1月御霊文楽座所演
	●文楽座の春興行を聴く	劇評	面壁入道		浪花浄瑠璃雑誌 名物	第219号	①大正12年1月 ④浪花浄瑠璃雑誌社 ③大正12年1月御霊文楽座所演
	義太夫虎之巻 絵本太功記十冊目の口 夕顔棚の段	演出	胴摺帽人 (杉山茂丸)		黒白	百十四号	①昭和2年4月 ④黒白発行所
	第二部 増補 浄瑠璃素 人講釈 八五 絵本太功記 十冊目口 夕顔棚の段		杉山其日庵 (茂丸) 著 ／内山美樹 子・桜井弘 編		浄瑠璃素人講 釈	(下)	①平成16年11月 ④岩波書店 ③岩波文庫、「十冊目切 尼ヶ崎の段」 も掲載

	◎文楽座十一月興行概括 評						
	第四部 新聞劇評抜萃 東劇・「文楽」来る 「人形」抜き						
	栄三の断面						
	演出 内田富太郎						
	劇評 三宅周太郎						
	劇評 沼艸雨						
	劇評 三室騰						
	演劇巡礼						
	浪花浄瑠璃雑誌 演劇巡礼						
	浪花浄瑠璃雑誌 第318号						
	舞台展望 第五号						
	浪花浄瑠璃雑誌 第393号						
	演劇評論 第一卷第二号(表記は「第二卷」とある)						
	浪花浄瑠璃雑誌社 昭和7年12月						
	浪花浄瑠璃雑誌社 昭和7年11月四ツ橋文楽座所演						
	昭和10年5月 中央公論社						
	新聞記事より転載、昭和5年8月 東京東京劇場(素浄瑠璃)所演						
	昭和15年9月 浪花浄瑠璃雑誌社						
	(1)吉田栄三の十次郎について 『天網島時雨炬燵』の治兵衛や『義経千本桜』の狐忠信についての記述もあり)						
	昭和26年11月 舞台すがた社						
	昭和26年10月四ツ橋文楽座(因会)所演(短評)						
	昭和28年10月 演劇評論社						
	昭和28年8月三越劇場(三和会)所演						
争う文楽 —夏の三つ和会(三越劇場)と因会(中座)—							
文楽の恋八卦 —十月の文楽座評—							

参考資料一覧

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	喜左衛門の絃 —三つ和会・東京三越二の替り—	劇評	安藤鶴夫		演劇評論	第二卷第一号	①昭和29年1月 ④演劇評論社 ③昭和28年12月東京三越劇場(三和会)所演
	収穫は『酒屋』 —新文楽座の初開場—	劇評	大西重孝		演劇界	第14卷第2号	①昭和31年2月 ④演劇出版社 ③昭和31年1月道頓堀文楽座(因会)所演
	前途多難 —大阪文楽座柿茸落し—	劇評	塩野谷恵彦		問	第四号	①昭和31年4月 ④名古屋歌舞伎研究会 ③昭和31年1月道頓堀文楽座(因会)所演(短評)
	関西劇場街採点 新派・大衆劇・文楽	劇評	北岸佑吉		演劇界	第24卷第8号	①昭和41年7月 ④演劇出版社 ③昭和41年5月朝日座所演
	若い世代の思考	劇評	杉本嘉代子		演劇界	第30卷第14号	①昭和47年12月 ④演劇出版社 ③昭和47年11月東京国立劇場小劇場所演
	関西劇信 文楽の近松物など	劇評	北岸佑吉		演劇界	第31卷第6号	①昭和48年6月 ④演劇出版社 ③昭和48年4月朝日座所演

『太十』讚	初心の『逆櫓』、充実の『太十』	文楽鑑賞教室・讚	二つの太功記	手摺 三 時代物Ⅱ名場面 絵本太功記	関西劇信 花ぐもり大衆劇		
劇評	劇評	劇評	劇評	解説	劇評		
富岡泰	富岡泰	藤巻透	内山美樹子	山田庄一	北岸佑吉		
演劇界	演劇界	演劇界	演劇界	文楽 美学 人形の	演劇界		
第44巻第1号	第43巻第8号	第39巻第2号	第36巻第10号		第32巻第5号		
①昭和61年1月 ④演劇出版社 ③昭和60年11月国立文楽劇場所演	①昭和60年7月 ④演劇出版社 ③昭和60年5月東京国立劇場小劇場所演	①昭和56年2月 ④演劇出版社 ③昭和55年12月東京国立劇場小劇場所演	①昭和53年10月 ④演劇出版社 ③昭和53年8月東京国立劇場小劇場所演	①昭和49年10月 ④毎日新聞社 ③森晋六・榎本由喜雄・山田庄一・佐藤鉄彌Ⅱ編集／林嘉吉Ⅱ写真	①昭和49年5月 ④演劇出版社 ③昭和49年4月朝日座所演		

参考資料一覧

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	第二部 明治の東京 七、忍び寄る転機 新声館 新声館人形大素人評	劇評	鬼太郎		東京の人形浄 瑠璃		①平成3年2月 ④日本芸術文化振興会 ③演芸資料選書・5、倉田喜弘編 明治29年10月東京新声館所演、鬼太郎の評は10月21日付報知新聞より転載、東帰坊の評は10月27日付東京朝日新聞より転載
	文楽名作案内 絵本太功記	解説	名和久仁子		別冊太陽 日本 のこころ	No.80 文楽	①平成5年1月 ④平凡社 ③阪口弘之編
	「妙心寺」が傑作	劇評	安土政夫		演劇界	第51巻第6号	①平成5年5月 ④演劇出版社 ③平成5年4月国立文楽劇場所演
	通し上演の主人公の造形	劇評	富岡泰		演劇界	第51巻第7号	①平成5年6月 ④演劇出版社 ③平成5年5月東京国立劇場小劇場所演
	派手な型を選んだ今回の 光秀（玉男） 国立文楽劇場四月『絵本太功記』	劇評	宮辻政夫		上方芸能	116号	①平成5年11月 ④『上方芸能』編集部 ③平成5年4月国立文楽劇場所演

	文楽散見 ―二月、五月国立小劇場―	劇評	倉田喜弘	歌舞伎 と批評 研究	12	①平成5年12月 ④リポポート ③平成5年5月東京国立劇場小劇場 所演			
第三部 名作の鑑賞 時代物 絵本太功記	鑑賞 藤田洋二編	鑑賞	藤田洋二編	文楽ハンドブック		①平成6年12月 ④三省堂 ①平成15年3月改訂版			
文楽鑑賞入門Ⅲ 第三回「絵本太功記」十 段目 ―あらわれ出でたる武智光秀―	解説 山川静夫	鑑賞	山川静夫	NHK日本の 伝統芸能		①平成7年4月 ④日本放送出版協会			
初春にめでたく九代綱大 夫誕生	劇評 田村耕介	劇評	田村耕介	演劇界	第54巻第2 号	①平成8年2月 ④演劇出版社 ③平成8年1月国立文楽劇場所演			
震災後の文楽と九代目綱 大夫誕生 ―文楽・九五八年八月～九六年一月―	劇評 富岡泰	劇評	富岡泰	歌舞伎 と批評 研究	17	①平成8年6月 ④歌舞伎学会 ③平成8年1月国立文楽劇場所演			
にぎやかに綱大夫襲名披 露 玉男の保名の名人芸	劇評 宮辻政夫	劇評	宮辻政夫	上方芸能	124 号	①平成8年8月 ④『上方芸能』編集部 ③平成8年1月国立文楽劇場所演			
玉男の光秀に存在感	劇評 田結莊哲治	劇評	田結莊哲治	演劇界	第55巻第9 号	①平成9年7月 ④演劇出版社 ③平成9年6月国立文楽劇場所演			

参考資料一覧

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
499	「夕顔棚」とさつき —『絵本太功記』十段目の読み—	研究	黒石陽子		国語と国文学	第76巻第11号	①平成11年11月 ④至文堂 ③東京大学国語国文学会 編集、特集「浄瑠璃と歌舞伎」
	文楽の名作ダイジェスト 絵本太功記	解説	後藤静夫		NHK日本の 伝統芸能		①平成12年4月 ④日本放送出版協会 ③やさしい文楽鑑賞入門Ⅶ
	庄倒する芸魂の玉男の光 秀	劇評	福本和生		演劇界	第58巻第8号	①平成12年6月 ④演劇出版社 ③平成12年5月東京国立劇場小劇場 所演
	玉男の大きさを確かめつ —平成十二年上半期の文楽—	劇評	富岡泰		歌舞伎 と批評	26	①平成12年12月 ④歌舞伎学会 ③平成12年5月東京国立劇場小劇場 所演
	文楽の名作ダイジェスト 絵本太功記	解説	阿部俊夫		NHK日本の 伝統芸能		①平成13年4月 ④日本放送出版協会 ③やさしい文楽鑑賞入門Ⅷ
	文楽の名作 絵本太功記	解説	児玉竜一 編著 浦田健次郎 監修		能楽 文楽 歌舞伎 日本の 伝統芸能への誘い		①平成14年8月 ④教育芸術社

	文楽鑑賞入門 第四回『絵本太功記』の 舞台 ―謀反人光秀一族の悲劇―	解説 鑑賞	高木秀樹		NHK日本の 伝統芸能		①平成15年4月 ④日本放送出版協会
新・勘十郎 幸せなスター ト	劇評	廓正子		演劇界	第61巻第7 号	①平成15年5月（6月号） ④演劇出版社 ③平成15年4月国立文楽劇場所演	
実力発揮の新勘十郎	劇評	水落潔		演劇界	第61巻第9 号	①平成15年7月（8月号） ④演劇出版社 ③平成15年5月東京国立劇場小劇場 所演	
「泉下の目」は客席の目 平成十五年四月公演	劇評	片山剛		上方芸能	149号	①平成15年9月 ④『上方芸能』編集部 ③平成15年4月国立文楽劇場所演	
劇場必携ダイジェスト24 絵本太功記	鑑賞	松平盟子		劇場に行こう文楽 にアクセス		①平成15年10月 ④淡交社	
浄瑠璃の復曲、復活、通 し上演と現在の文楽	研究	内山美樹子		演劇研究セン ター紀要	II	①平成16年1月 ④早稲田大学演劇博物館 ③『絵本太功記』の通し上演のあり 方について触れる	

参考資料一覧

上演資料集 掲載号	題名	種目	執筆者・著者	話者	誌名・書名	号数	備考
	第二章 名作ガイド 絵本太功記	鑑賞	松平盟子		豊竹咲甫大夫 と文楽へ行こ う		①平成16年12月 ④旬報社
	第四章 豊竹咲甫大夫・ 思い入れのある名場面	随筆	豊竹咲甫大 夫				
	時代物・男の巻 三十 絵本太功記	解説	高木秀樹 著／青木信 二〥写真		あらすじで読む名 作文楽50		①平成17年7月 ④世界文化社 ③ほたるの本
	明智光秀は逆臣だったの か？	研究	藤田達生		国立劇場歌舞 伎公演解説書	第246回	①平成17年11月 ④日本芸術文化振興会
	『絵本太功記』小考 ―浄瑠璃から歌舞伎へ―		児玉竜一				